

いくの de リノベ

人の可能性を広げる家

第4回目のお住まいは、事務所兼自宅として長屋をリノベーションされている橋爪さん宅。1階の改築は専門家に依頼しながら、解体作業など出来ることはご自身でされたそう。当時の仕事の関係で引っ越してきた生野区。偶然移り住んだ場所だそうですが、まちの活性に積極的に関わってこられました。“生野区空き家活用プロジェクト”の名付け親で、その一員としてリードしてきた橋爪さん。プロジェクトを進めるため、“実験台”として名乗りを上げ、空き家を購入。“第1号”として出来上がったのが現在のご自宅。（“生野区空き家活用プロジェクト”については、右記のブログで紹介しています。）



▲勝山北地区にある橋爪さんのお住まい。裏路地に面したお家は、勝山通りからほど近い場所ですがゆったりとした時間が流れる静かな空間です。

お住まいには、玄関と別の場所に設けられたもう一つの入口があります。入るとすぐに土間が広がり、腰かけるのに丁度良い上がり框（かまち）が迎えます。事務所をメインとして、家族・友人が集うプライベート空間、さらには地域活動やワークショップの開催場所、といった具合にさまざまな顔を持ち、多くの人が集うこの場所。生野区内で“まちのえんがわ”の名で、会社の一角をコミュニケーションスペースとして開放されている先例にならない「まちのえんがわ 橋爪事務所」と名付けられています。「家に事務所を作って、そこをいろんな顔を持つ場所にする。そんな暮らしがしたいと思っていたので、この場所はお気に入り。」と話す橋爪さん。



「“お誘い”には極力応えるようにしている。まずは一度やってみることを大切にしている。」と話す橋爪さんは、地域の活動にも関わっています。「こんな暮らしがしたい」と思ったことが多くの人に助けられて形になり、今の場所ができた。この場所がまた、叶えたい夢のある人を引き寄せ、その人の可能性を広げる場所になっている。」という言葉からは、出会いを大切にしている人柄が溢れていました。



いくの de リノベの取材の様子や詳しい情報をブログでご紹介しています。



素敵な“お隣さん”を紹介してください！

「いくの de リノベ」では、生野区らしいリノベーション暮らしを紹介します。（他薦のみ）

お隣さんの条件 生野区在住で古い家屋をリノベーションし、自分らしく暮らしている方

応募方法 「問合せ」へ下記事項を連絡ください。

（電話・FAX・郵送で受付）

①あなたのお名前・ご連絡先

②紹介したい“お隣さん”のお名前・場所（可能であれば連絡先）

問合せ 企画総務課 ☎6715-9683 FAX6717-1160 〒544-8501 生野区勝山南3-1-19

★空き家の相談はこちら⇒☎6715-9734

IKUNOX グローバル

FERNANDO SELVAGGIO LOPEZ さん
(フェルナンド・セルバジオ・ロペス)

カタルーニャ出身（スペイン）。画家。昨年6月国際結婚のため、故郷のバルセロナから生野へ。昨年10月からはリノベーションした長屋に移り住み、アトリエで作品を描く傍ら、カタルーニャ料理を友達と囲むなど、ご夫婦で生野暮らしを楽しんでいる。



（ボナ タルダ）
Bona tarda!
こんにちは！

絵はいつから？

子どもの頃から大好きで、絵ばかり描いていました。アートアカデミーや大学で学んだあと、一度はシステムエンジニアとして勤めましたが「自分が本当にしたいことは何か」を考えて「やっぱり絵を描きたい」と思い、2006年から絵を描くことを中心に活動しています。

生野のまちの印象は？

生野のまちが大好きです。なんだか懐かしくて。生まれ育ったバルセロナでは、子どもの頃、ご近所さんが気軽に声をかけあっていました。通りのお店では、買い物かてら会話を楽しんだり。夕方には家の軒先でゆっくりして、行き交う人と声をかけあったり。そんな40年前のバルセロナのまちに、生野のまちは似ていると思います。懐かしさを感じる町並みと、ちょうどいい距離感のまちの人たちが、僕にとっては居心地がよく、とても住みやすいんです。今のバルセロナのまちは、梅田みたいに大都会。都会は便利でいいけれど、僕は当時の故郷を思い出す生野のまちと人が大好きです。

IKUNOXグローバルは生野区ブログでも発信しています。

生野区 チームいくみんな通信



平井木工挽物所

銘木から作りだされる万年筆は
世界にひとつだけの
“大人のこだわり文房具”



代表
平井 守さん

今もなお、昔ながらの轆轤（ろくろ）を用いて作りあげる木製の万年筆、ボールペンは、数多くの雑誌や新聞、テレビなどでも紹介され、注目されている。

工房は、平井さんが23歳の時に創業。傘の先端部や柄、化粧筆、筆ペンなどを作っていたが、安い輸入品のあおりを受け、さらに指の怪我もあり、一時は廃業も覚悟。それでも「不器用だから、木を挽くことしかできない」という職人魂と、ペンを制作していた経験から、木を用いたオリジナル文房具を作りはじめた。

万年筆やボールペンに、使用される天然木は屋久杉、黒檀、カリンのこぶ等、稀少な銘木ばかり。また図面や下書きもなく、手の感覚だけで木を削り作り上げる作業は職人の技が光る。

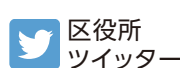
「“カチッ”とキャップがはまる瞬間が気持ちいい」と平井さんは言う。

世界にひとつだけの「大人のこだわり文房具」は、退職祝いや結婚式の引き出物など、大切な記念日の贈り物として選ばれている。



生野ものづくり百景について、詳しくはホームページをご覧ください。

生野区 ものづくり百景



ブログ
チームいくみんな通信

